

# SETOGIWA TIMES

発行所：行政書士塩見事務所 E-mail: [info@setogiwa.com](mailto:info@setogiwa.com) Web: [www.setogiwa.com](http://www.setogiwa.com)  
大阪市中央区谷町 2-5-4 702 号 Tel: 06-6946-9505

## ① 何が事実なのか

離婚の相談を受けるとき、相談者の話を聴いているといろいろな疑問……  
「この人は本当に離婚を望んでいるのだろうか?」「より強く離婚を望んでいるのはご夫婦のうちのどちらなのだろうか?」「話に出て来ない離婚の原因が何か他にあるのではないだろうか?」などなど……が頭の中を駆け巡ります。

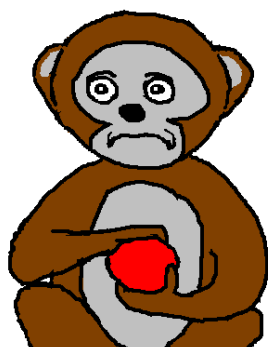
相談者は「離婚したい」という思いを持って来られるのですが、何からどのように説明すればいいのか分からないのが普通です。これまで誰にも相談したことがないとすればなおさらで、要領よく説明できる人など滅多にいません。

それは相談者自身、まだ自分の方針が確実に固まっていないことと、心の中に迷いがあることとも関係があります。

「人間は自分を取り巻くできごとを説明するときには、自分が有利になるように話す」という一般的傾向があります。説明している本人には自分が有利になるように話すつもりがなくても、自然にそうなるようです。聴き手は相談者と対話をしながら客観的な事実を一つずつ見極めて行かねばなりません。

## ① たった一度の人生

相談者も相談をしながら「本当に離婚でいいのか?離婚できるのか?」と不安な気持ちを抱いています。離婚をすること自体は決めたとしても、他に決めることが沢山あります。



これからの生活の基盤、住む家、当面の蓄え、定期的な収入、自分の身に非常事態が起こった時の対処方法、子どもがいる場合は子どもの行く末についての見通し、子どもの気持ちはちゃんと聴けたか、などなど……。

「決めることはみな決めた」というところまで確かめてから最後の決断をしても遅くはありません。

もしもこれまでの人生が不本意なものであったと考えるなら「あとの人生をどのように生きるのか」ということも離婚に際してクローズアップされます。

それは、今まであまりとらわれずに過ごしてきた「自分自身」を振り返り、自分自身の内面と向きあういい機会となるでしょう。

「相手の意見を主に受け入れて自分はあまり意見を言わなかったかもしれない。本当は言いたいことがあったけれど、相手の意見に従うのを当たり前のこととして受け入れて来たかもしれない。家の中が円満ならそれでいいかと。

それでいて自分の意見が尊重されないことに漠然とした不満を持っていた。」

## **i** 何が正しいのか

家庭に円満が求められるように、会社には良好な上下関係が求められます。

上司の方針に逆らわず、上司の指示を疑うことなく、上司の喜ぶようなお世辞のひとつも言える人が出世をする、それが世間の常識になっています。

上司の打ち出した方針に対して意見を表明する？上司の考えつかないような斬新なアイデアを提供する？とんでもない！そんなことをしようものなら上司からも周囲の同僚からも迷惑がられるだけです。「もの言わぬ」社員、素直に指示に従う社員こそ、会社にとって最良の社員なのです。

「礼を失することのない範囲で上下関係の垣根を越えて意見を戦わせてこそ、会社にとっての最善策が導き出される」これが理想なのでしょうが、社員の力に期待し、社員の力を引き出そうとする会社は特殊な存在のようです。



会社勤めに親しんだ人（特に役職者）は同じ感覚を家庭に持ち込みがちですが、家庭は会社ではありません。

夫婦のどちらかが自分の思い通りに物事を進めるのではなく、家族共同体の一員としてお互い自由にものが言えて当たり前。一つの問題をとことん話し合ってみれば、自分の中に古い考えが潜んでいたことが分かるでしょう。離婚が現実問題として持ち上がった今こそその時かもしれません。

ほかにもできます：相続・遺言/交通事故/告訴・被害届/パスポート手続

E-mail: [info@setogiwa.com](mailto:info@setogiwa.com) Web: [www.setogiwa.com](http://www.setogiwa.com)

会社は嫌なら辞めれば済みますが、家族は簡単に辞められません。